



要配慮者利用施設における避難の実効性確保について

(タイムラインを作成しよう！)

令和5年8月3日

要配慮者利用施設における避難確保の重要性

●避難確保が不十分

- 平成28年8月台風10号による豪雨で、岩手県小本川が氾濫し、「グループホーム楽ん楽ん」の入所者9名が犠牲となる被害が発生



- 避難準備情報の理解が不十分
- 水害を想定した避難マニュアルはなく、訓練もしていなかった

- 避難準備・高齢者等避難開始に変更
- 水防法が改正され、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成と市町村への報告及び避難訓練の実施が義務化

- 令和2年7月豪雨で、熊本県小川が氾濫し、特別養護老人ホーム千寿園では、施設の1階が浸水し、利用者14名が犠牲となる



- 土砂災害は想定していたが水害は想定していなかった

- 水防法が改正され、要配慮者利用施設における避難訓練結果の市町村への報告が義務化され、避難確保計画や避難訓練の内容に対して市町村が助言や勧告が行えるようになった

要配慮者利用施設における避難確保の重要性

●避難確保が十分

・利用者や職員が安全に避難できた事例

R元台風19号 埼玉県川越市 川越キングスガーデン

警察等により、近傍の避難所へ全員避難

スロープ・階段によりC棟(2階)へ避難

【特別養護老人ホーム
川越キングスガーデン】
利用者100人

到達水位

A棟

B棟

C棟



要配慮者利用施設における避難確保の重要性

- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波災害警戒区域内に位置し、地域防災計画に定められた施設には、洪水・雨水出水・高潮・土砂災害・津波に対する**避難確保計画**を作成し、**市町村に報告することが義務付けられています。**
- また、**訓練を実施し、その結果を市町村に報告することが義務付けられています。**
- まずは、従事している施設の**避難確保計画を確認しましょう。**

施設管理者

- 避難確保計画の作成
- 避難訓練の実施



【ポイント】

既存の非常災害対策計画や消防計画、学校の危機管理マニュアル等と一体的に作成することが可能です。

市町村

- ・ 避難確保計画の報告
- ・ 訓練結果の報告

〇〇防災課



助言・勧告等



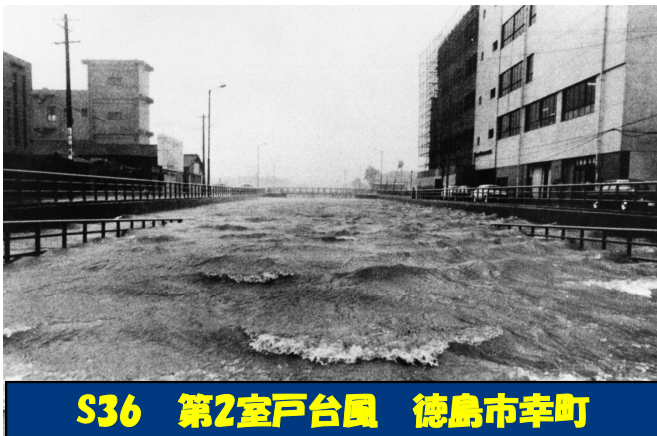
美波町における災害リスク

美波町の災害リスクとしては、地震、津波、水害（洪水・雨水出水）、土砂災害、高潮などが考えられますが、本日は次の3つを主に、避難確保の重要性についてお話しします。

水害(洪水)



高潮



土砂災害

①土石流



②がけくずれ



③地すべり

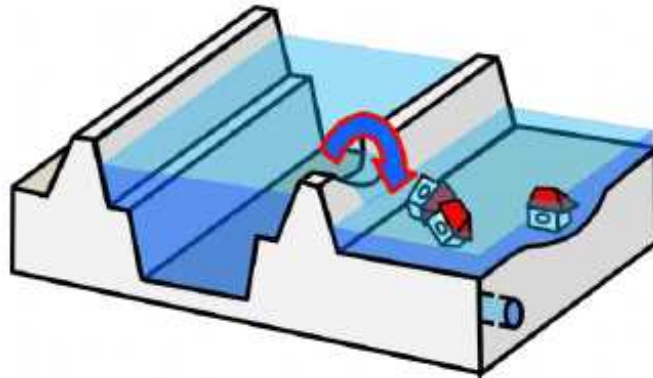


洪水等の種類

かいすいはんらん
外水氾濫

ないすいはんらん
内水氾濫

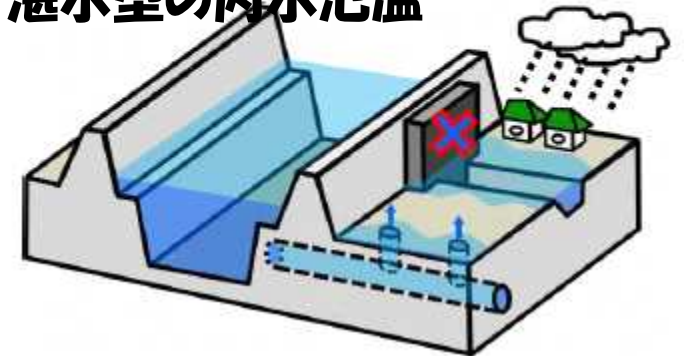
かせん ぞうすい
河川の増水が
げんいん
原因



だいかせん ぞうすい
大河川の増水による

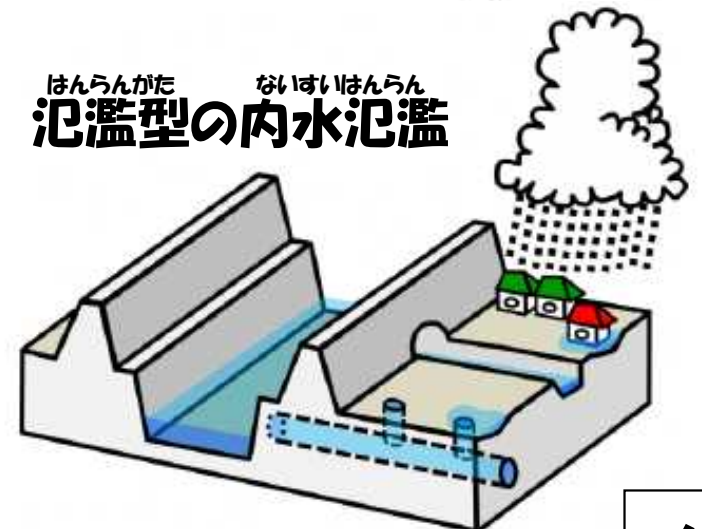
しせん はんらん
支川の氾濫

たんすいけた ないすいはんらん
湛水型の内水氾濫



かせん ぞうすい
河川の増水に
むかんけい
無関係

はんらんがた ないすいはんらん
氾濫型の内水氾濫



水害の特徴

災害の特徴



- 比較的**広域**に渡って被害が拡大
- 河川の水位上昇に伴い、**徐々に**浸水域、浸水深が増加
- 破堤による**外水氾濫**の場合は**家屋の破壊**を生じるが、**内水氾濫**の場合は**家屋の浸水**が大半
- 豪雨のたびに同じ地域で**繰り返し起こる**

避難行動に関する特徴

- 川の水位等から**危険性を判断**
- 水位を目視にて確認できるため、**危険性を認識しやすい**
- 流域内の降雨状況から水位を**精度よく想定することが可能**

住民の意識

- 危険性を認識しやすいため、比較的**避難する**。

土砂災害を起こす自然現象 ①がけ崩れ

- ・ガケや急な斜面が大雨や地震などで突然崩れ落ちる現象
- ・突然崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が発生しやすい



こんな
ところが
危険!

- 高くて急な山
- ひびが入っているがけ
- わき水が多いがけ

1986年 鹿児島豪雨災害(鹿児島県鹿児島市)



斜面の高さの2倍ぐらいの距離まで崩れた土砂が届く可能性

土砂災害を起こす自然現象 ②土石流

- ・大雨によって山の斜面が崩れ、その土砂が谷にあった土砂とともに水と混じってものすごい勢いで流れてくる現象
- ・時速20~40kmの速度で一瞬のうちに家や畑を押し流す



こんな
ところが
危険!

- 急な谷川の近く
- おうぎ形に広がった谷川
- 谷の出口に大きな石がゴロゴロしているところ

2014年 広島土砂災害(広島県広島市)

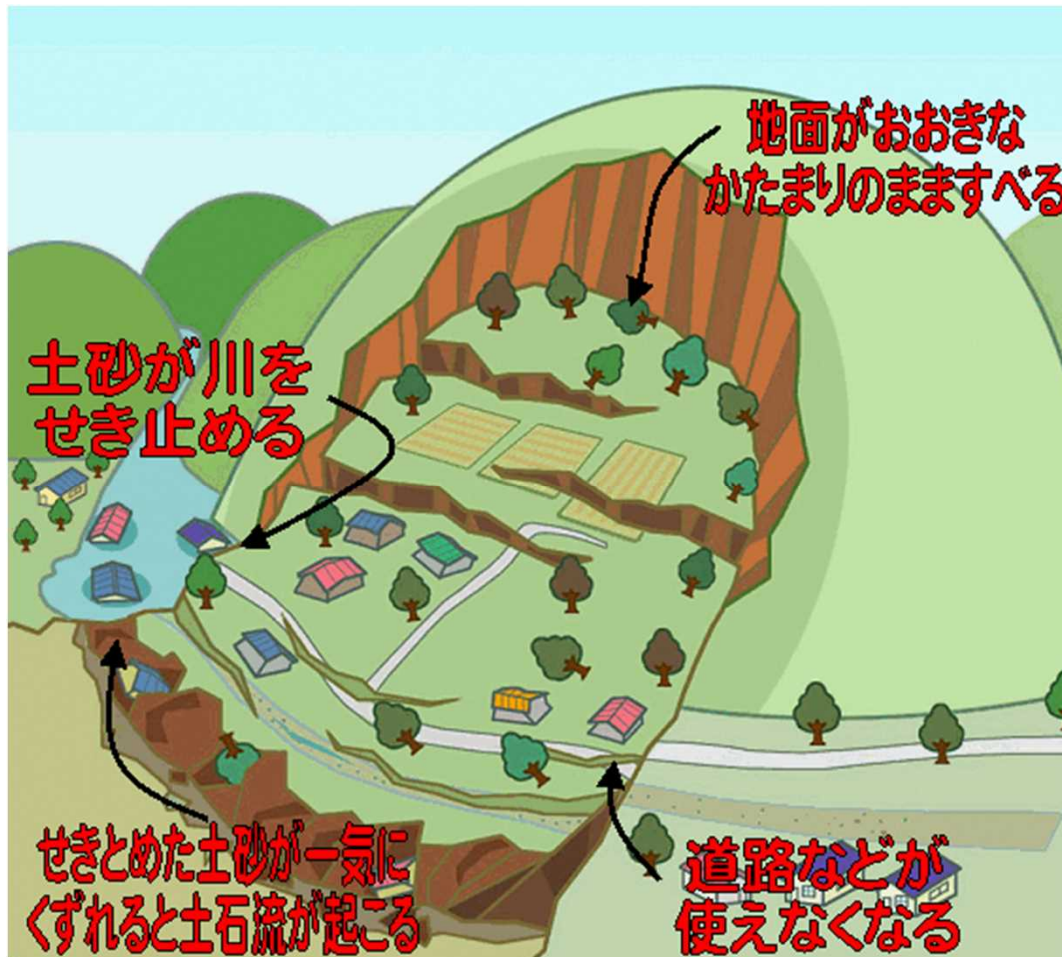


傾斜が2~3度のところまで土砂が到達

土砂災害を起こす自然現象

③地すべり

- ・ 地面の一部又は全部がゆっくりと滑り落ちる現象（突然いっきに数m動くこともある）
- ・ 広い範囲にわたって動くため大きな被害が出る



こんな
ところが
危険!

- 過去に地すべりが発生
- 緩やかな斜面
- 地面に割れ目がある

1995年 地附(ちづき)山地すべり(長野県長野市)



NPO法人土砂災害防止広報センター

土砂の移動スピードは遅い(1mm/日程度)
1mm/hで注意。4mm/hを超えると避難

土砂災害の特徴

災害の特徴



- **局所的**に被害が発生
- 降雨を起因として発生し、**突発的**に被害が発生
- 土砂と石礫が高速で移動するため、**家屋の破壊**を生じ、**人的被害**が発生しやすい
- 豪雨のたびに同じ箇所**繰り返し起こることは少ない**（火山地域を除く）

避難行動に関する特徴

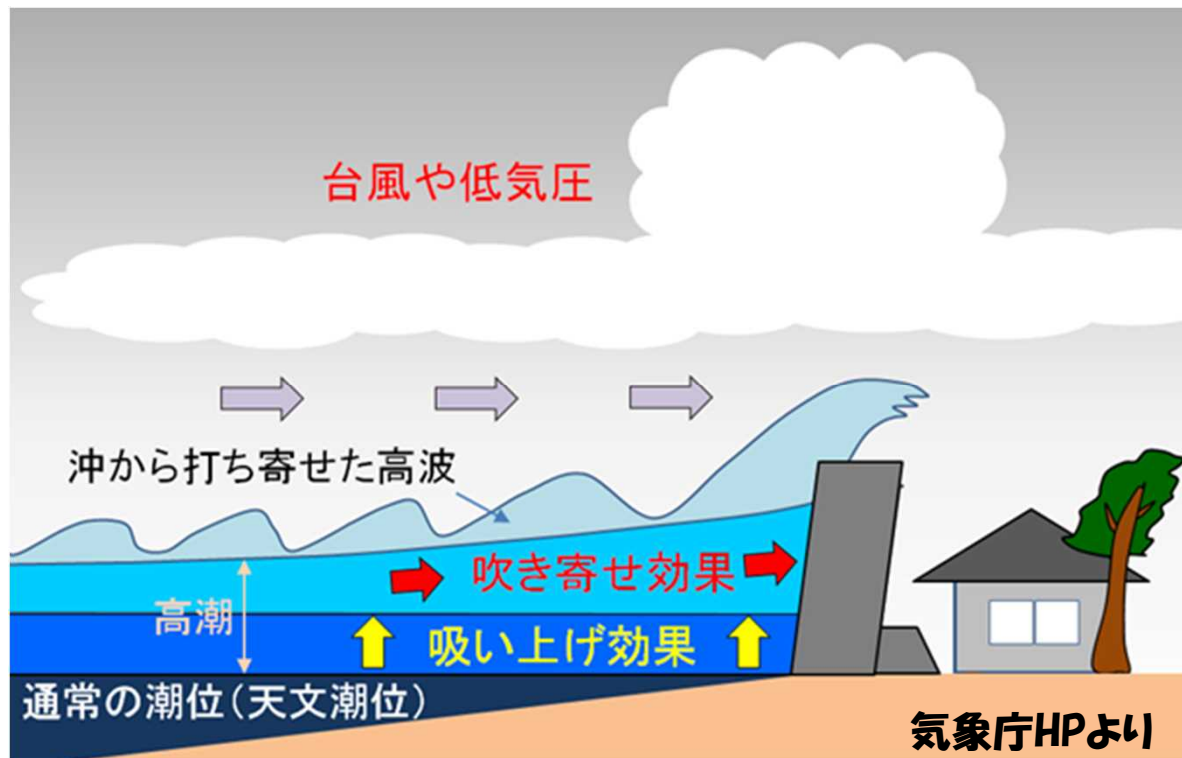
- 降雨と地形、地質状況に起因するため、**危険性を判断しにくい**
- 目視による確認が比較的困難であるため、**危険性を認識しにくい**
- 降雨や地形、地質等の複数の要因が影響するため、**精度の高い発生予測が困難**

住民の意識

- 危険性を認識しにくいため、**避難しない。**

高潮とは？

台風や発達した低気圧が通過するとき、「吸い上げ効果」や「吹き寄せ効果」により、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。



吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いいため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

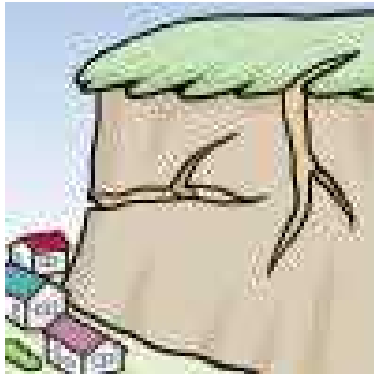
その他の高潮の特徴

- 台風や発達した低気圧によるため、「洪水」や「強風」を伴う「複合災害」になる
 - 津波と同じように、海からやってきて、河川を遡上して氾濫することもある
- ※ 越堤や破堤等による「外水氾濫」もあれば、河川の水位が上昇することにより、降雨が排水できずに「内水氾濫」になることもある。

前兆現象を知る(がけ崩れ)



- ・湧き水が急に増える
- ・湧き水が濁る

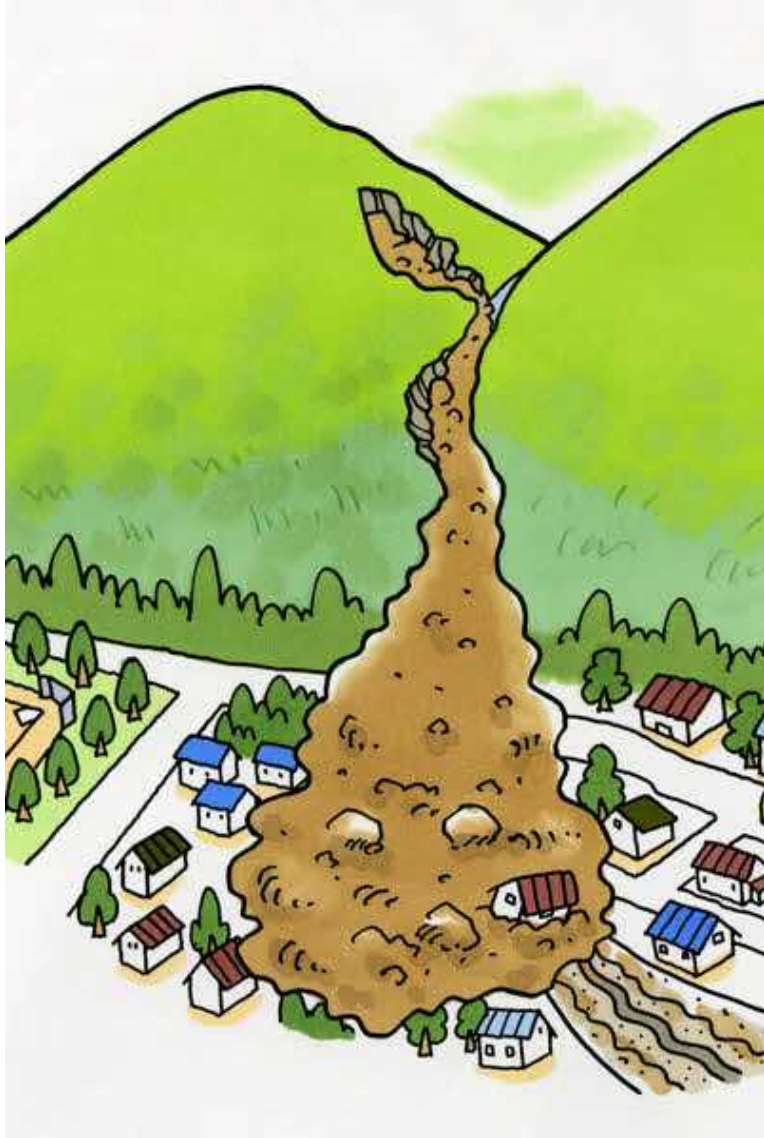


- ・がけに亀裂(割れ目)ができる
- ・斜面がはらみ出す

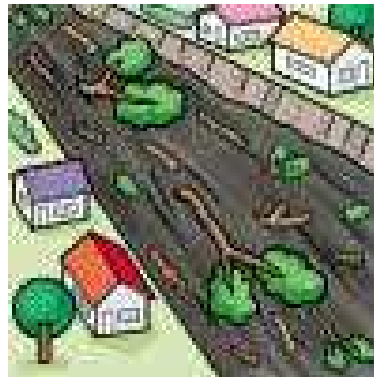


- ・がけから小石がパラパラと落ちてくる

前兆現象を知る (土石流)



- ・「山なり」がする(山全体がうなっているような音、地震のように山がふるえる)
- ・異様なにおいがする

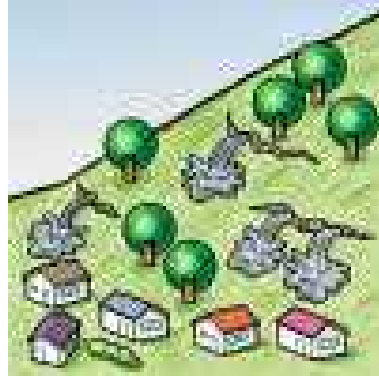


- ・川の水が急激に濁る
- ・水といっしょに倒れた木が流れてくる

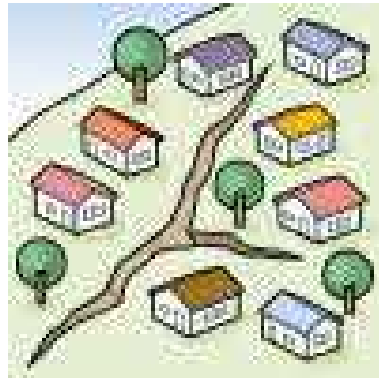


- ・雨は降り続けているのに、川の水が急に減る

前兆現象を知る (地すべり)



- ・ 斜面のところどころから、急に水が湧く



- ・ 地面にひび割れができる
- ・ 地面の一部が落ち込んだり、盛り上がる



- ・ 井戸水が濁る
- ・ 池や沼の水が、急に増えたり減ったりする
- ・ 田んぼの水が急に減る

前兆現象に関する注意点

- ① **前兆現象を発見したら、必ずすぐ避難をする。**
 - ・近所の人にも声をかけて一緒に避難する。
 - ・役場に連絡を入れる。
- ② **土砂災害は、「前兆現象」がなくても起こる場合がある。「前兆現象」がないから安全・安心ではない。**
 - ・雨の降り方がいつもと違うと感じたり、役場から避難情報が出されたら、避難をしよう。
- ③ **前兆現象を確認するために危険な場所には近づかない**
 - ・がけや谷川から離れた安全な場所から確認しよう。

災害から命を守る

●平常時・日頃の備え

① 災害リスクを知る

- (1) 洪水 ①浸水深 ②浸水継続時間 ③家が壊れる区域
- (2) 土砂災害 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
- (3) 高潮 ①浸水深 ②浸水継続時間

② 安全な避難を考える・避難確保計画の策定

- (0) 事前休業 (1) 避難場所 (2) 避難経路・方法
- (3) 避難のタイミング (4) 避難支援体制

③ 避難訓練・防災教育の実施

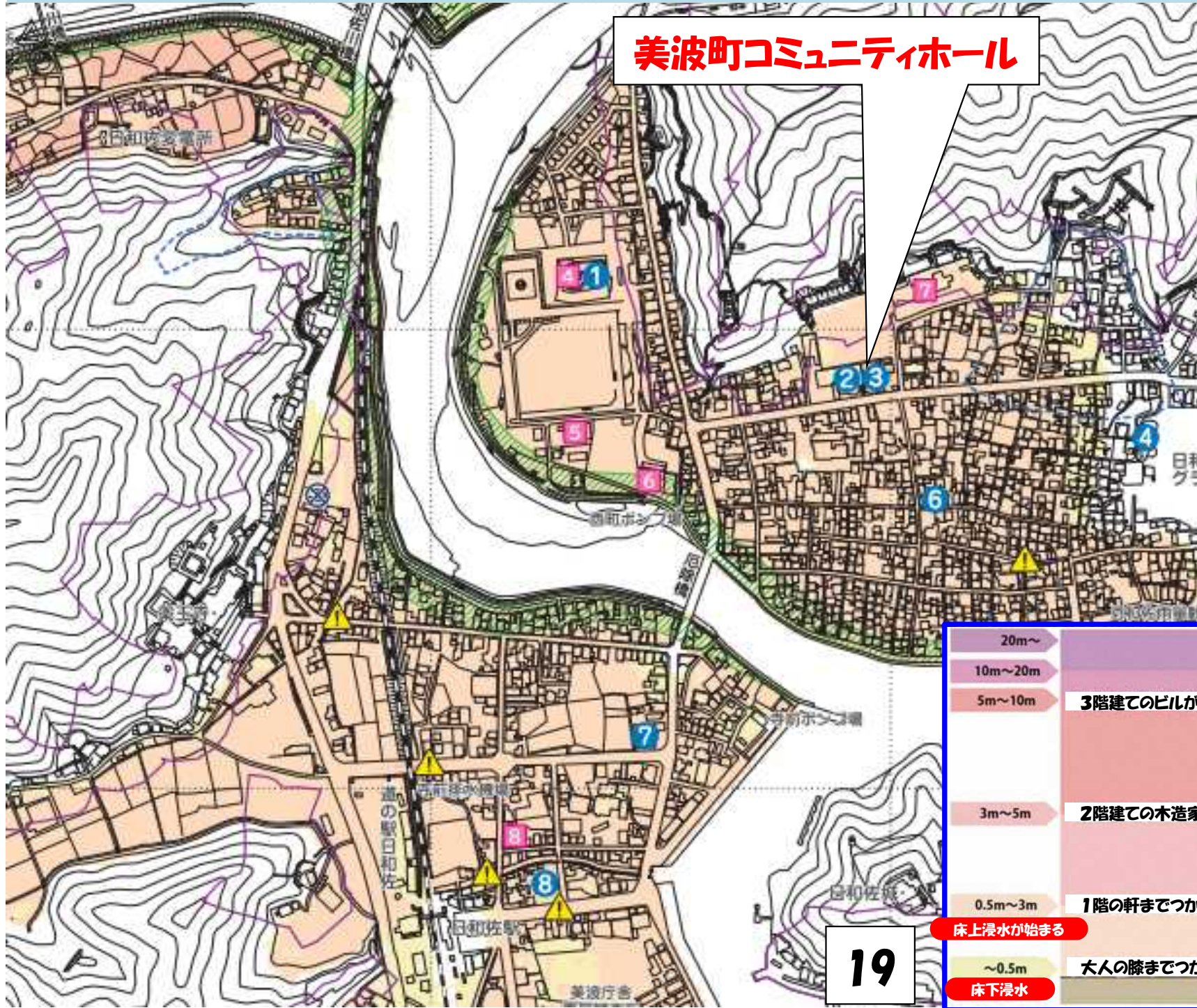
●大雨時・早めの避難

避難情報や防災気象情報等を確認し、早めの避難

日和佐川ハザードマップ

※浸水する区域と深さがわかる
 ※指定緊急避難場所がわかる

美波町コミュニティホール



- 想定される浸水深
- 5.0 ~ 10.0m
 - 3.0 ~ 5.0m
 - 0.5 ~ 3.0m
 - 0.01 ~ 0.5m

早期立ち退き避難が必要な区域

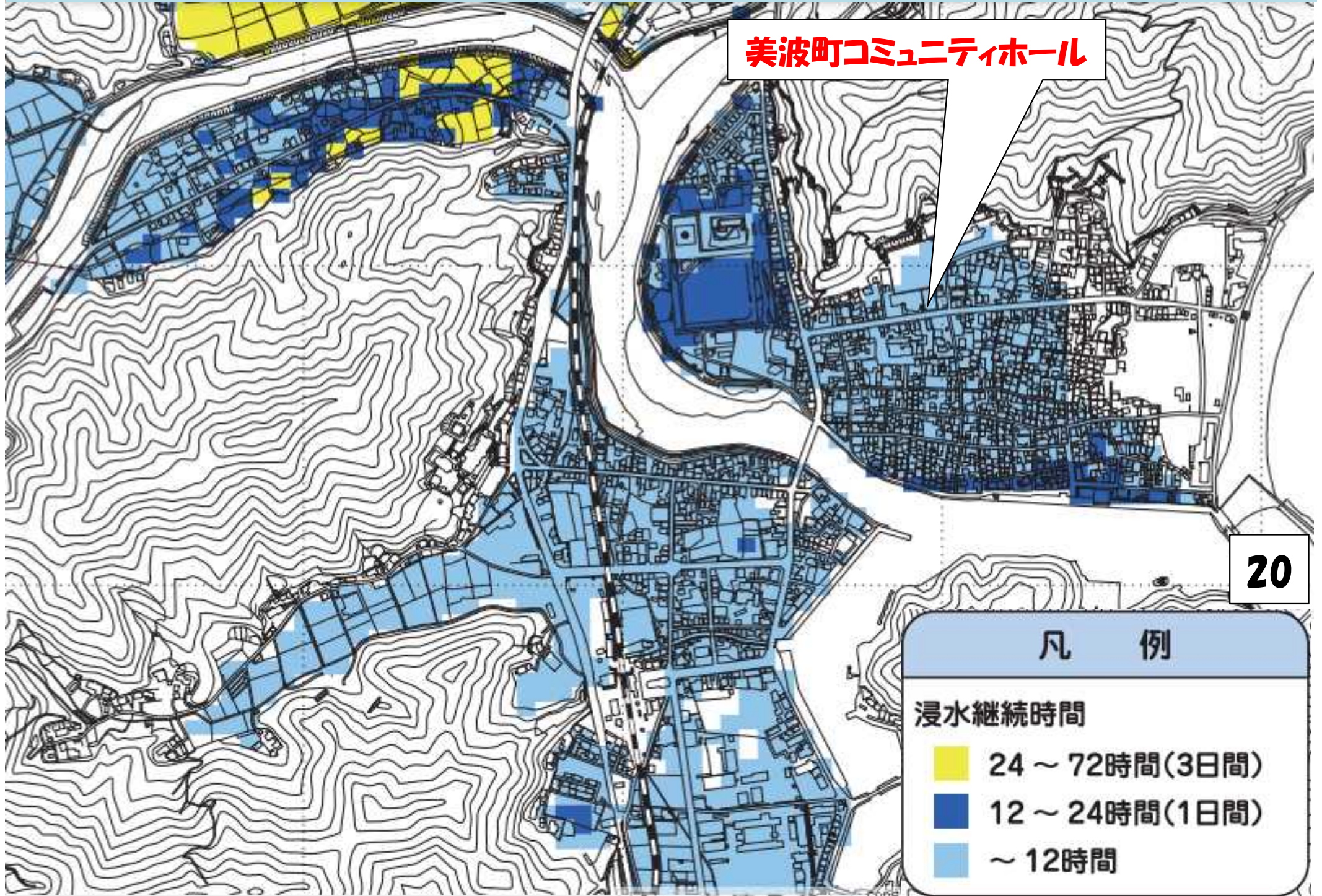
家屋倒壊等危険区域
 (河岸侵食)

洪水により河岸が侵食され、家屋が倒壊・流出するおそれがある区域です。

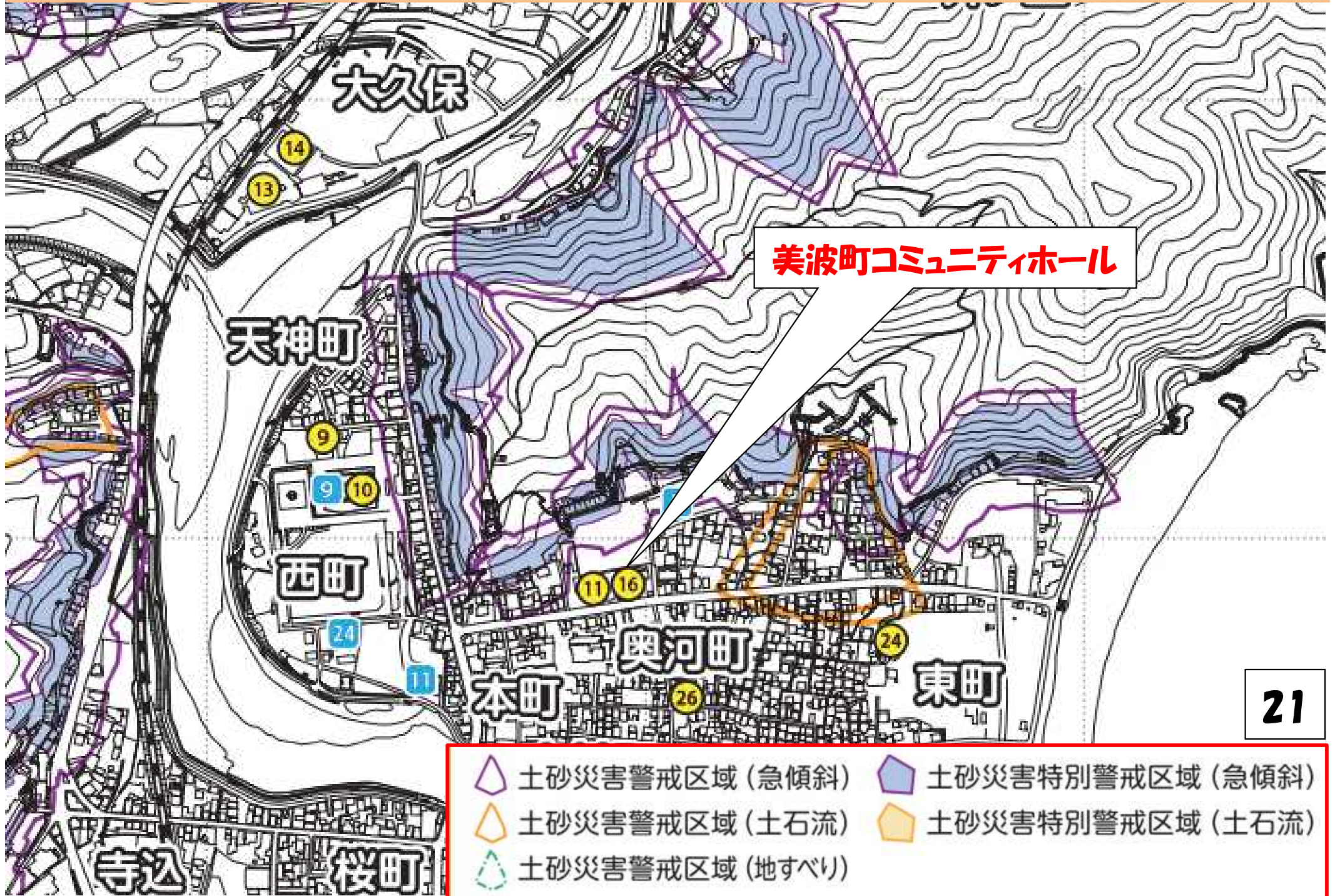


日和佐川ハザードマップ

※浸水する時間がわかる



美波町土砂災害ハザードマップ



美波町高潮ハザードマップ

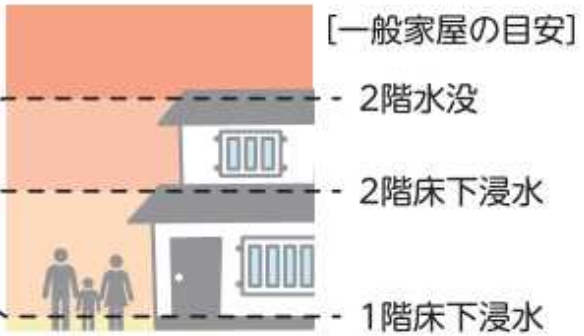
美波町コミュニティホール



想定される浸水深

- 5.0 ~ 10.0m
- 3.0 ~ 5.0m
- 0.5 ~ 3.0m
- 0.01 ~ 0.5m

[一般家屋の目安]



22

安全な避難を考える・避難確保計画の策定

① 降雨と河川の状況

- ・ 台風
- ・ 梅雨前線や秋雨前線に伴う長雨
- ・ ゲリラ豪雨(集中豪雨・局地的大雨)

外水氾濫

内水氾濫

② 利用者の出所状況等

- ・ 出所前 (事前休業)
- ・ 出所後 (帰宅・避難 (屋外避難・屋内待機))

③ その他

- ・ 警報・注意報
- ・ 避難情報 (高齢者等避難・避難指示・警戒レベル)
- ・ 公共交通機関の運行状況

安全な避難を考える・・・避難確保計画の策定(事前休業の判断)

水害等は、台風の襲来や長雨の兆候により、災害発生前に対応できる時間があるため、通所施設においては、休業判断をすることが利用者の命を守る上で最善の判断

- ①誰が 情報収集担当者→責任者
 ※コロナ禍の中、複数の者を指名
- ②いつ 利用者が在宅中（前日～朝）
 ※一番早く自宅を出る利用者を考慮
 ※利用者が通所後、天候の急変した場合のことも考えておく
- ③判断基準 気象情報・避難情報・通行規制等
 ※利用者の通所・来所時の状況を考慮
- ④連絡 連絡担当者→家族・利用者
 ※手段(電話・メール・LINE等) 確認

帰宅の判断（施設内での一時避難）

利用者が安全に帰宅できるよう早めの判断が重要

安全な避難場所・避難経路を考える（水害・高潮）

●立ち退き避難（水平避難）・・・浸水想定区域外へ移動



26

●屋内安全確保（垂直避難・待避）・・・浸水深より高い階へ移動

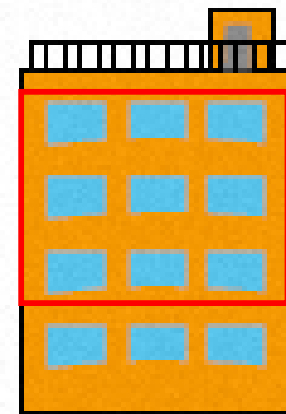


ただし、3条件のクリア必要

- ①洪水や高潮で家が壊れない
(家屋倒壊等氾濫想定区域でない
高潮に対する構造耐力がある建物)
- ②浸水深より居室が高い
- ③食料や水、トイレ等が十分で
水が引くまで我慢できる

安全な避難場所・避難経路を考える（土砂災害）

イエローゾーンやレッドゾーンの外への避難が避難行動の基本



堅牢な建物で土砂が流入しない高い居室がある場合は屋内安全確保も可

避難先の選定における留意点

1

施設が下記の区域に該当する

※高潮で壊れる建物に住んでいる場合を含む

はい

いいえ

はい

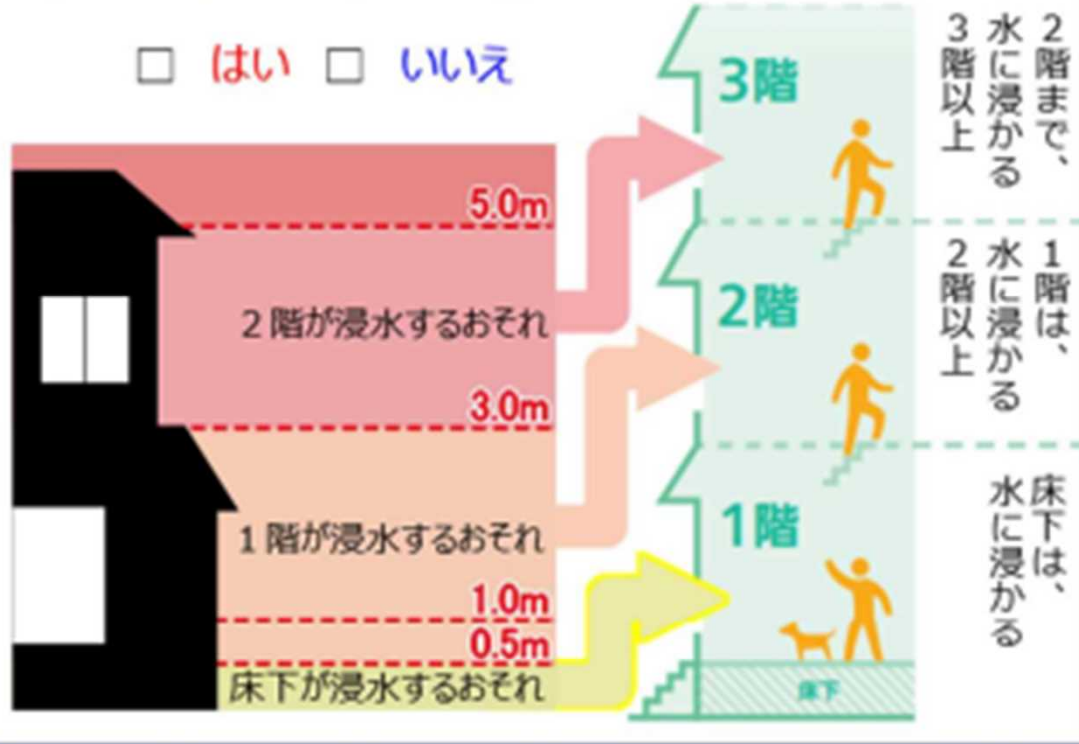
家屋倒壊等氾濫想定区域

土砂災害(特別)警戒区域

2

施設の浸水深より高い所に避難スペースがある

はい いいえ



いいえ (高い所にスペースがない)

3

浸水継続時間

避難スペースにて
電気や通信、
水道、トイレ等が
使用可能である

はい

いいえ

いいえ

はい

施設外の避難先に
立退き避難

■ 系列の施設や
同種・類似の施設



■ 市町村が指定する
指定(福祉)避難所、
指定緊急避難場所



■ 近隣の安全な場所
■ 宿泊施設



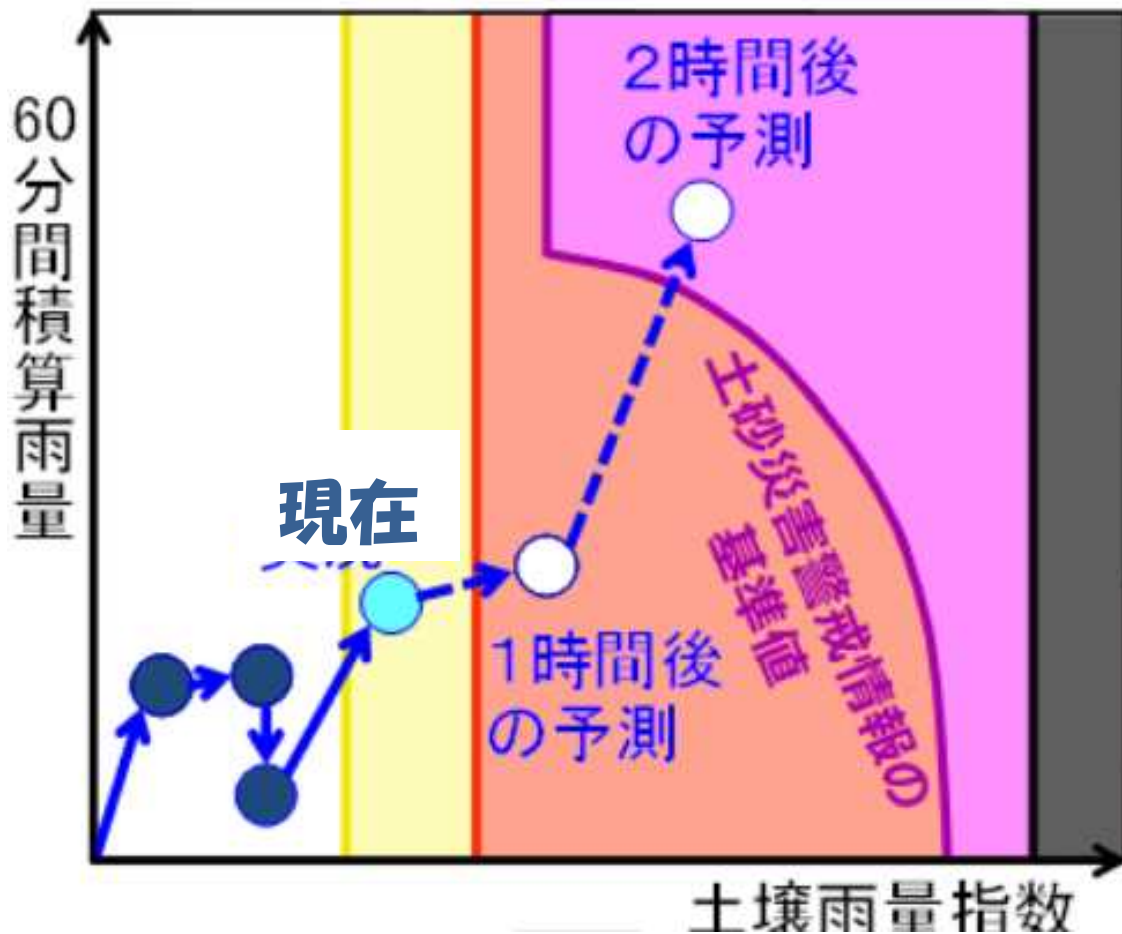
施設内の高い所に
屋内安全確保

●避難のタイミングを決める（警戒レベルと避難行動）

警戒 レベル	施設がとるべき行動	避難情報 市町村から発令	警戒レベル相当情報	
			気象情報	河川水位
5	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全 確保	大雨特別警報(大雨) 氾濫発生情報 高潮氾濫発生情報 洪水。土砂キキクル(黒)	氾濫発生・切迫
警戒レベル4までに必ず避難！				
4	避難完了 	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮・暴風警報 高潮・暴風特別警報 洪水・土砂キキクル(紫)	氾濫危険水位
3	避難開始 	高齢者等 避難	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報 警報に切り替える可能性の高い高潮・強風注意報 洪水・土砂キキクル(赤)	避難判断水位
2	日没までの避難完了 前日の休業判断 		大雨・洪水・高潮・強風注意報 氾濫注意情報 洪水・土砂キキクル(黄)	氾濫注意水位
1	情報収集 		早期注意情報 (警報級の可能性)	

土砂災害警戒情報について

土砂災害発生のおそれが高まってきたときに発表される情報。発表されたら危険な場所にいる人は避難開始。2時間ぐらいの避難時間を考えている。



●避難のタイミングを決める際の留意点

避難にかかる時間 = (避難準備 A + 移動 B)



●避難時間は、避難時の状況(天候や時間帯、停電)や避難時の態勢(人数や使用可能車両数等)により変わること



どうやって避難するか決めておく

- ・通行止めを考慮して**複数の経路**決めておく。
優先順位をつける。
- ・**荒天時や夜間**など避難時のことを想定する。
- ・**危険な箇所や歩きにくい箇所**等を
できるだけ避ける。

(例)「周りより低い場所」

「川の近くや土手」

「水路や側溝」

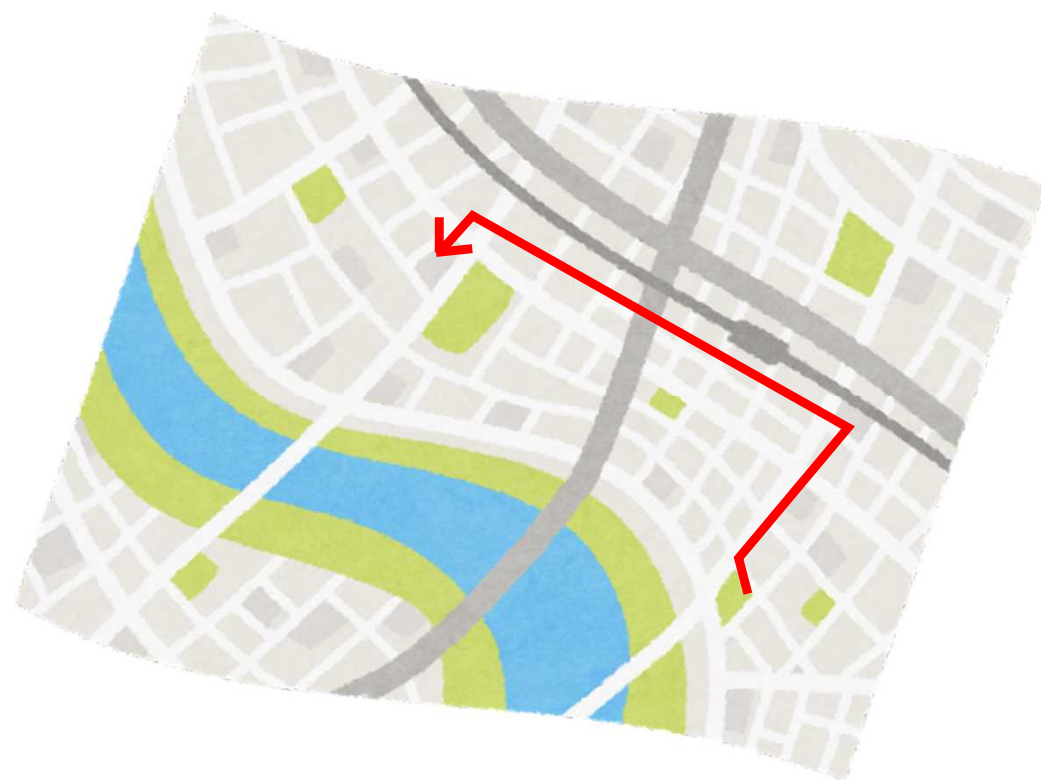
「がけや谷川の出口」、

「落石の恐れのある箇所」

「橋」

「道幅の狭い場所」

「老朽した建物」等



避難経路が決まったら、一度家族と歩いて安全を確認しておこう！

施設における防災体制の例

- 利用者の円滑な避難を確保するためには、防災体制を機能的に組織する必要があります。
- 職員だけで利用者の避難支援が困難な場合には、地域住民や利用者の家族、地元の企業等の外部の協力も得て体制を構築しましょう。
- また、夜間や休日などに迅速に駆けつけることができる緊急参集者も決めておくことが重要です。

職員一人一人が担当する内容を把握し、いざというときに対応できるようにしましょう！

①全体を指揮する
「統括指揮者」



②情報収集や伝達を担当する
「情報連絡班」



④避難に必要な設備や装備品等を
点検し準備する「装備品等準備班」

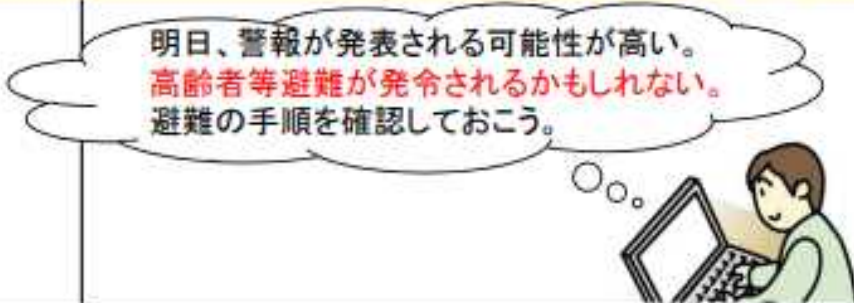





③利用者の避難支援を担当する
「避難誘導班」



【参考】統括責任者の役割

- 統括指揮者の役割は、状況を把握し**全体を指揮**することです。
- 警戒レベル等に応じて、職員等の召集や**避難開始の判断**を行います。
- 通所施設においては、**事前休業の判断**も行います。

レベル	統括指揮者	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握、指揮 ・体制確立の判断 ・事前休業の判断 	<p>明日、警報が発表される可能性が高い。 高齢者等避難が発令されるかもしれない。 避難の手順を確認しておこう。</p> <p>事前休業の判断も考えておこう！</p> 
警戒レベル2 ＜注意体制＞	<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握、指揮 ・職員等召集 ・(避難開始判断) 	<p>夜中に、高齢者等避難が発令されるかもしれない。 参集職員に声をかけておこう。</p> <p>川の水位がキケンです</p> <p>施設の体制を整えてください。</p> <p>情報連絡班 統括指揮者</p> 
警戒レベル3 ＜警戒体制＞	<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握、指揮 ・避難開始判断 	<p>避難場所まで避難を開始します</p> 
警戒レベル4 ＜非常体制＞	<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握、指揮 ・避難先での利用者支援の監督 ・(緊急安全確保の判断) 	<p>利用者の状況確認及び支援</p> 

【参考】情報連絡班の役割

○ 情報連絡班の役割は、防災気象情報や避難情報を収集し、統括指揮者や職員に情報を伝達することや、市町村等の関係機関や避難先、利用者の家族と連絡を取り合うことです。

レベル	情報連絡班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報等収集 ・職員への情報伝達 	<p>災害級の大雨が予想されています。今後の情報に注意してください。</p> <p>台風進路や大雨の予想情報を確認</p> <p>情報伝達</p> <p>台風の大雨により施設が浸水するかもしれません</p>
警戒レベル2 <注意体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 ・職員や避難支援協力者へ連絡 	<p>大雨や川の水位の最新情報を確認</p> <p>川の水位がキケンです</p> <p>報告</p> <p>統括指揮者</p> <p>連絡</p> <p>避難をするので手伝ってください</p> <p>地域の避難支援者</p>
警戒レベル3 <警戒体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報、水位情報、避難情報等の収集 ・利用者家族等への連絡 ・市町村等への連絡 	<p>避難情報が発令されました</p> <p>避難情報が発令されました</p> <p>共有</p> <p>統括指揮者</p> <p>施設関係者全員</p> <p>連絡</p> <p>今から〇〇施設へ避難します。</p> <p>保護者</p>
警戒レベル4 <非常体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村等への連絡 	<p>●●施設は系列の〇〇施設へ全員避難しました。</p> <p>市役所等へ</p>

【参考】 装備品等準備班の役割

- 装備品等準備班は、避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備します。
- また、避難に必要な移動用の車両手配や避難先への持ち出し品の運搬、利用者への装備品の装着等を行います。

レベル	装備品等準備班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ・(避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備) 	 <p>車いすなどを確保できているか</p>  <p>必要な備蓄品は確保できているか</p>
警戒レベル2 <注意体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 ・移動用車両の手配 	 <p>すぐ使えるところにあるか</p>  <p>避難に必要な車両は確保できたか</p>
警戒レベル3 <警戒体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への装備品の装着 ・移動用車両の確保 ・避難先への持ち出し品等を運搬 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 服装の着替え  ■ 移動の準備  ■ リフト車への移動 
警戒レベル4 <非常体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先での持ち出し品等の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の支援に必要な薬や食料の確保・管理 

【参考】避難誘導班の役割

- 避難誘導班の役割は、利用者の避難誘導を行うことです。
- 避難誘導を行うにあたって、事前に誘導方法の確認や避難ルートの確認を行います。避難完了後は、利用者の点呼も行います。

レベル	避難誘導班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	<ul style="list-style-type: none"> ・(避難誘導體制の確認) ・(避難ルートの確認) 	
警戒レベル2 <注意体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導體制の確認 ・避難ルートの確認 ・(避難誘導開始) 	
警戒レベル3 <警戒体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導開始 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>■立退き避難</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>■屋内安全確保</p> </div> </div>
警戒レベル4 <非常体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難完了の確認 ・避難先での利用者支援 ・(緊急安全確保の誘導) 	<p>利用者の状況確認及び支援</p>

防災気象情報や避難情報の収集

- 防災気象情報や避難情報は、初動体制の確立や避難開始の判断等をするために必要なものです。
- 収集する情報の内容や入手方法、伝達する情報の内容と伝達先をあらかじめ決めて確認しておきましょう。

種類	名称	入手手段と伝達イメージ
台風等の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■週間天気予報、天気予報 ■台風情報 ■早期注意情報 	<ul style="list-style-type: none"> □テレビのデータ放送 □ラジオ
雨の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■大雨注意報、洪水注意報 ■大雨警報、洪水警報 ■土砂災害警報情報 ■大雨特別警報 ■降水短時間雨量予測 ■キキクル(危険度分布) 	<ul style="list-style-type: none"> □インターネット
河川の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■氾濫注意情報 ■氾濫警戒情報 ■氾濫危険情報 	<ul style="list-style-type: none"> □防災情報メール □スマートフォンアプリ
避難の情報	<ul style="list-style-type: none"> ■警戒レベル3(高齢者等避難) ■警戒レベル4(避難指示) ■警戒レベル5(緊急安全確保) 	

避難に役立つ防災気象情報（気象庁） ・ ・ 地域の防災情報

- ・市町村で発表される防災気象情報を分野毎に一つのページで閲覧可能
- ・3種類の危険度分布と雨雲の動きを一つのページで閲覧可能

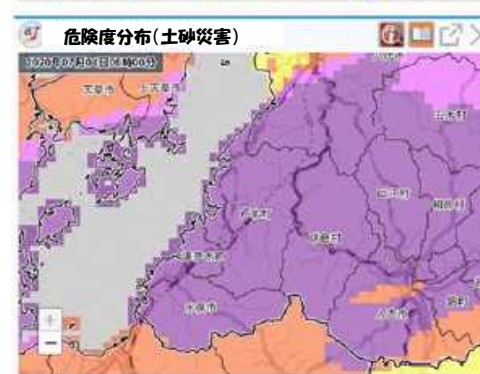
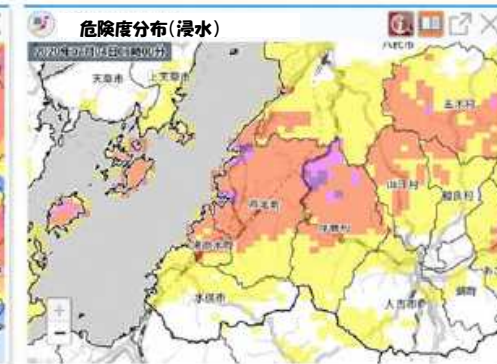
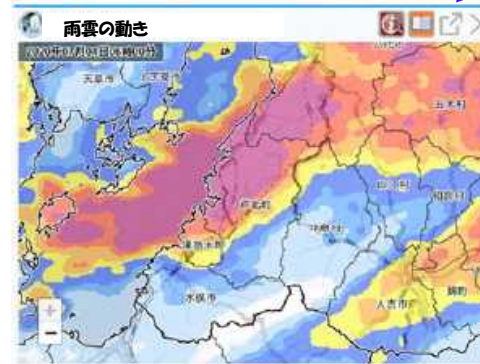
令和3年2月24日に
HPをリニューアル



種別	警報・注意報の切り替え
土砂災害	土砂災害特別警戒
洪水	洪水警戒
大雪	大雪警戒

種別	11日	12日	13日	備考							
土砂災害	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	関東甲信	土砂災害
洪水	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	関東甲信	土砂災害
大雪	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	関東甲信	土砂災害

全国 都道府県 市町村の防災情報



早期注意情報

5日先までの早期注意情報(警報級の可能性)

〇〇県南部の早期注意情報(警報級の可能性)

南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪、高潮警報を発表する可能性が高い。

また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

翌日まで

- ・天気予報と合わせて発表
- ・時間帯を区切って表示

2日先～5日先まで

- ・週間天気予報と合わせて発表
- ・日単位で表示

〇〇県南部	3日	4日				5日	6日	7日	8日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	[中]					—	—	[中]	—
暴風			[高]	[高]	[高]	—	[中]	[高]	—
波浪			[高]	[高]	[高]	—	[中]	[高]	—
高潮			[高]	[高]	[高]		[中]	[高]	

[高]: 警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる。詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。

[中]: [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

※警戒レベルとの関係

早期注意情報(警報級の可能性)・・・【警戒レベル1】

* 大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合。

翌日まで

前日の夕方の段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

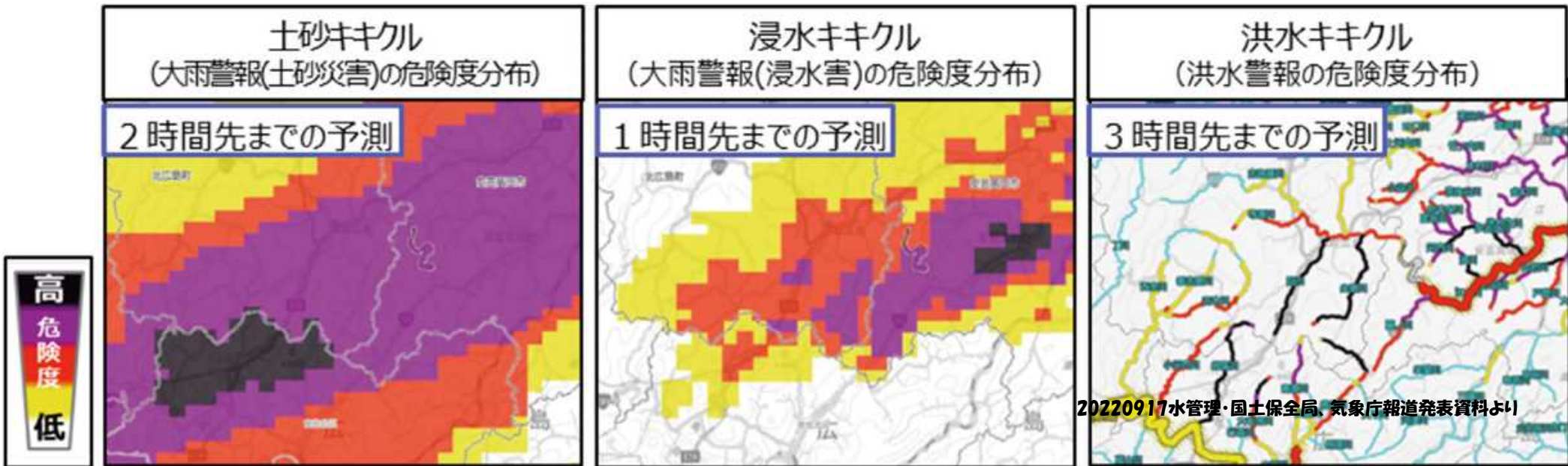
2日先～5日先まで

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

③キキクル（危機が来る）

大雨警報や洪水警報が発表されたときや強い雨が降ってきたときに確認

大雨による災害発生の危険度の高まりを伝えるキキクル

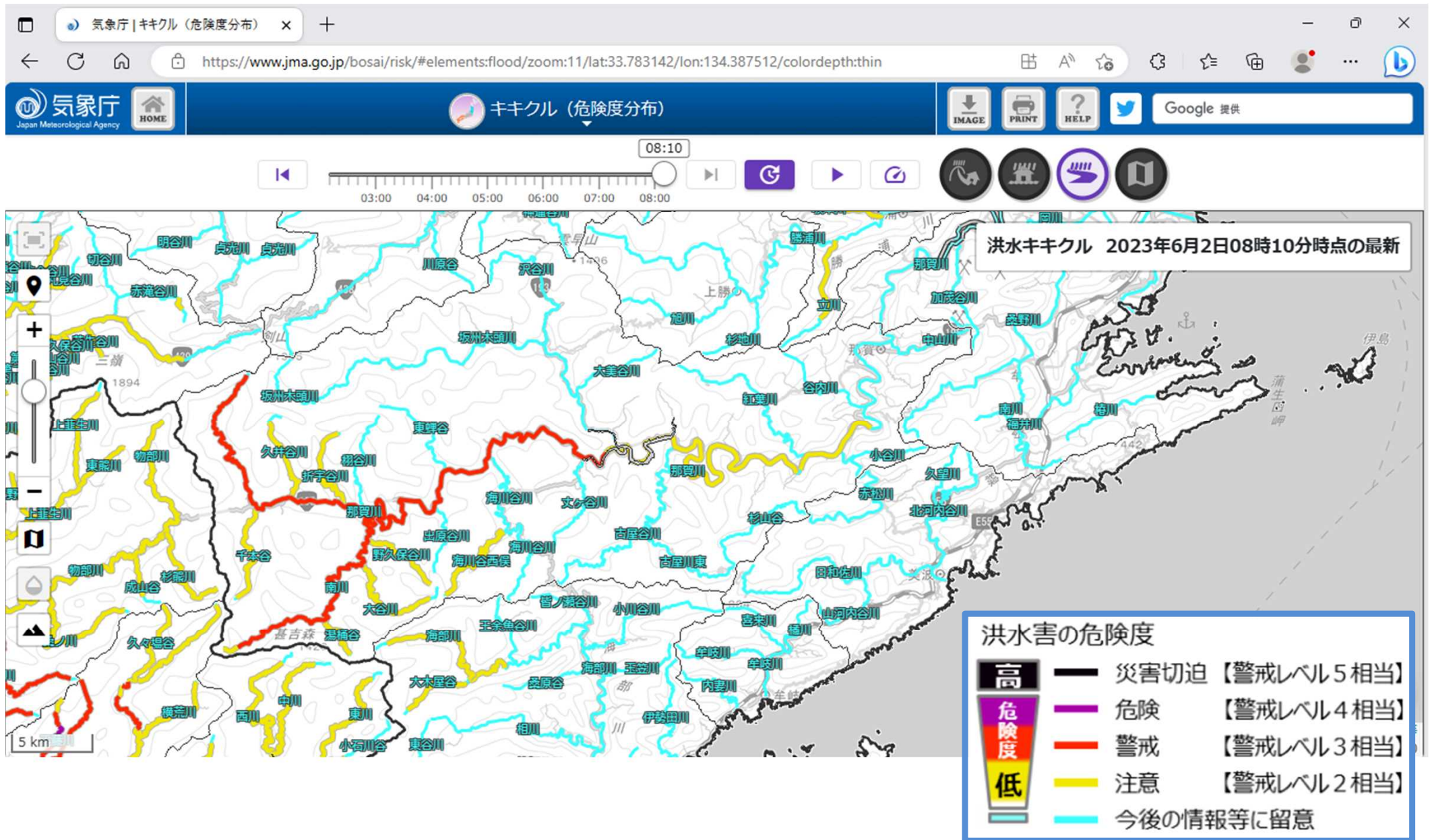


避難に役立つ**防災気象情報**（気象庁） ・ ・ 洪水警報の危険度分布

- ・大雨による**中小河川**（水位周知河川及びその他河川）の洪水災害発生危険度の高まりを5段階に色分けして地図上に表示。
- ・危険度の判定には**3時間先**までの流域雨量指数の予測値を用いて、中小河川の特徴である急激な増水による危険度の高まりを事前に確認できる。



避難に役立つ防災気象情報（気象庁） ・ ・ 洪水警報の危険度分布



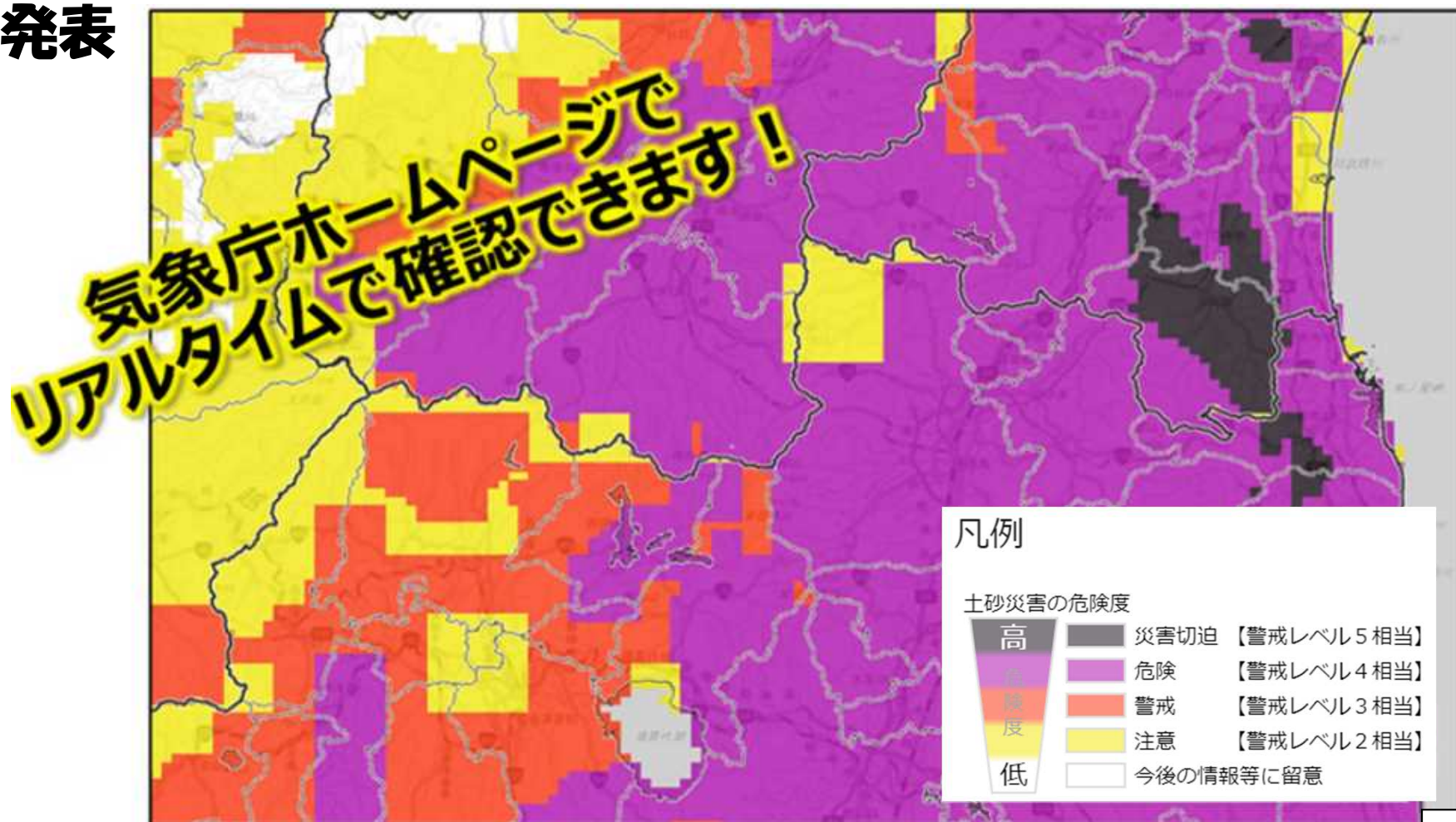
美波町内の洪水キキクル



土砂キキクル（気象庁） R4.6.30～運用変更

●大雨警報や土砂災害警戒情報が発表されたら、必ず確認！

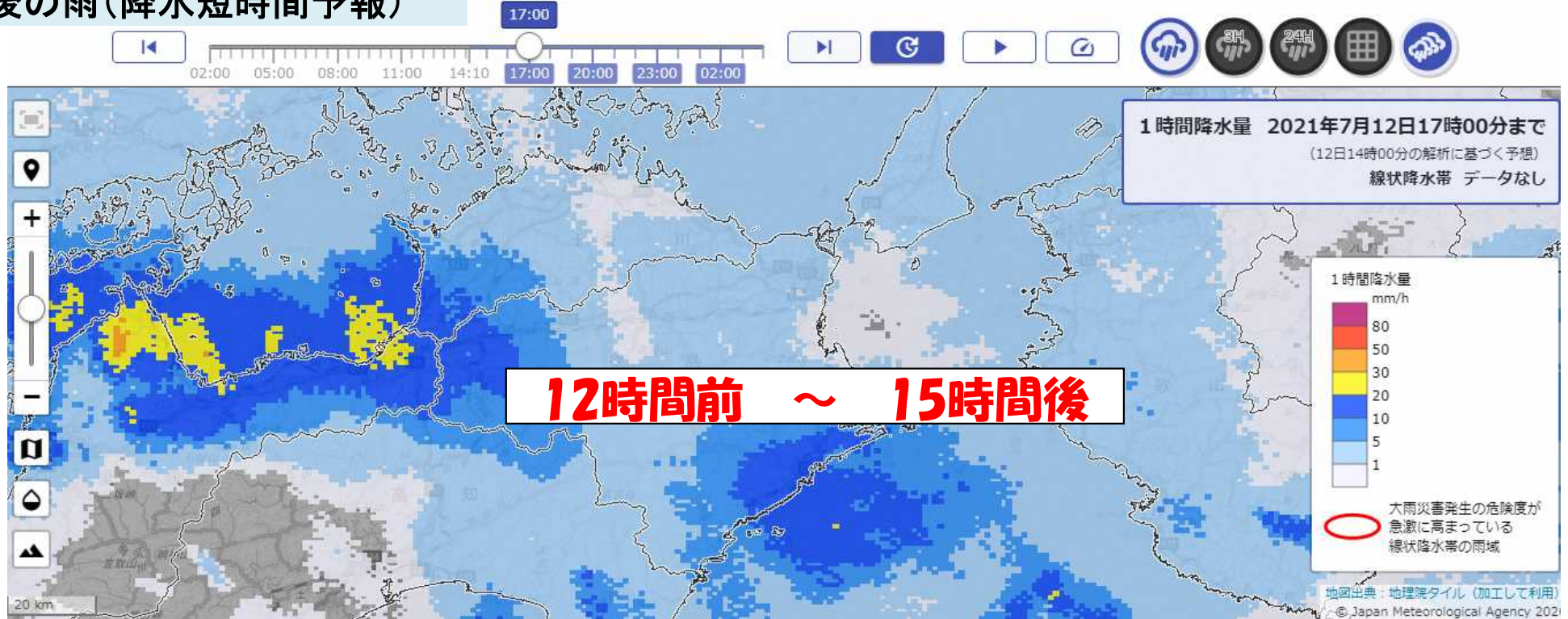
- ・土砂災害発生の危険度を1kmメッシュ毎に5段階に色分け
- ・避難にかかる時間を考えて2時間先までの予測値を採用
- ・赤色出現で大雨警報（土砂災害）、紫出現で土砂災害警戒情報発表



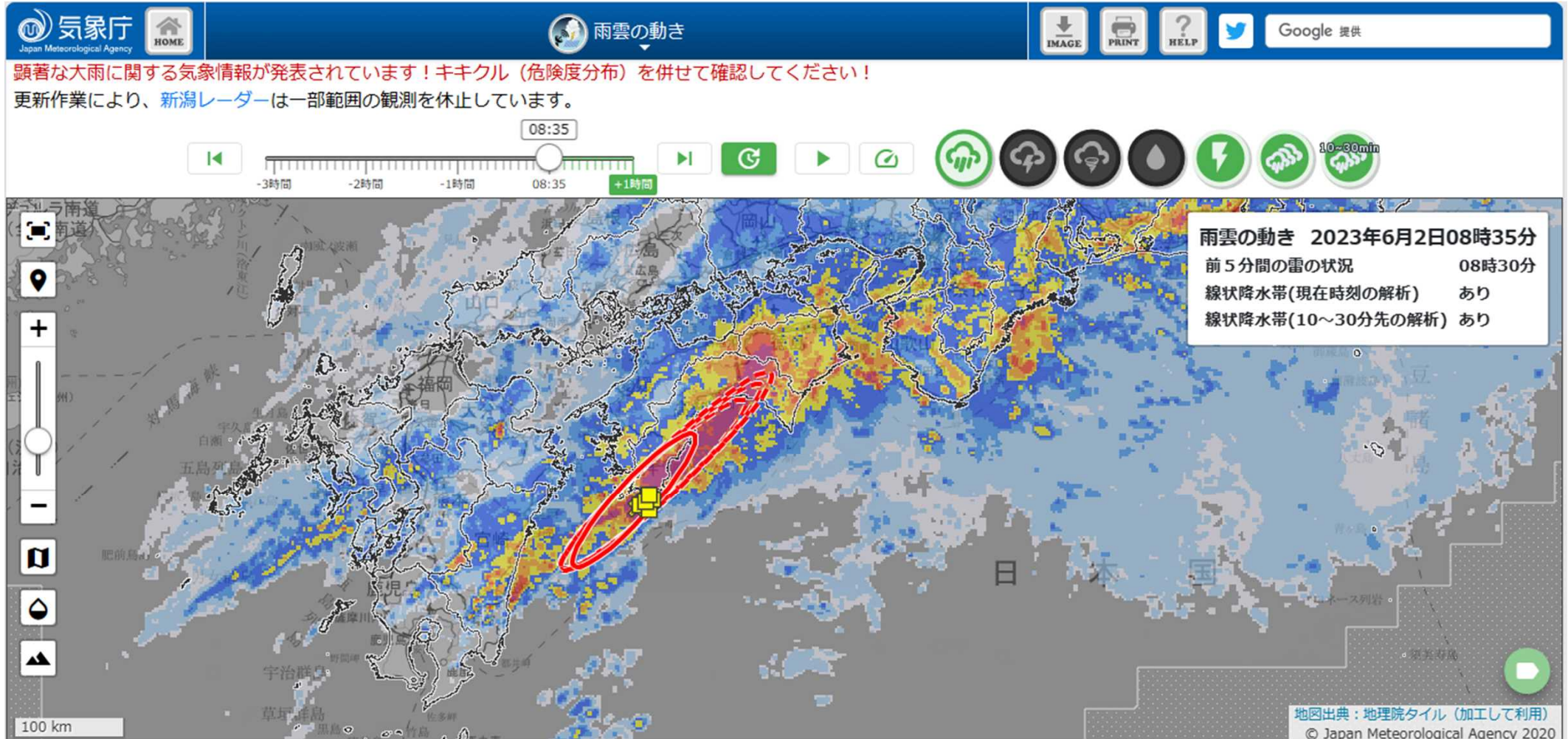
●自宅周辺が赤色（警戒）や紫色（危険）になったら、避難開始！

避難に役立つ防災気象情報（気象庁） ・ ・ 大雨の予報

今後の雨(降水短時間予報)



令和5年6月2日の線状降水帯の発生



避難に役立つ防災情報・徳島県水防情報

- TOP
- 地図情報
- 雨量情報
- 河川水位情報
- ダム情報
- 潮位情報
- レーダー雨量
- 気象警報注意報 (気象庁)
- 洪水予報
- 氾濫警戒情報等
- 水防警報
- 高潮氾濫危険情報
- カメラ映像
- 土砂災害情報
- CSVダウンロード
- 関連リンク

重要な情報

観測情報	1時間あたりの雨量が基準値を超過した地点	なし
	降りはじめからの雨量が基準値を超過した地点	なし
	警戒基準に達した河川	なし
	特別警戒水位に達した地点	なし
発表情報	洪水予報	<発表なし>
	氾濫警戒情報等	県内の国管理河川（今切川、旧吉野川、桑野川（国管理区間）、派川那賀川）の発表情報は こちら （川の防災情報）
	水防警報	県内の国管理河川（今切川、旧吉野川、桑野川（国管理区間）、派川那賀川、吉野川、那賀川（国管理区間））の水防警報は こちら （川の防災情報）
	高潮氾濫危険情報	<発表なし>

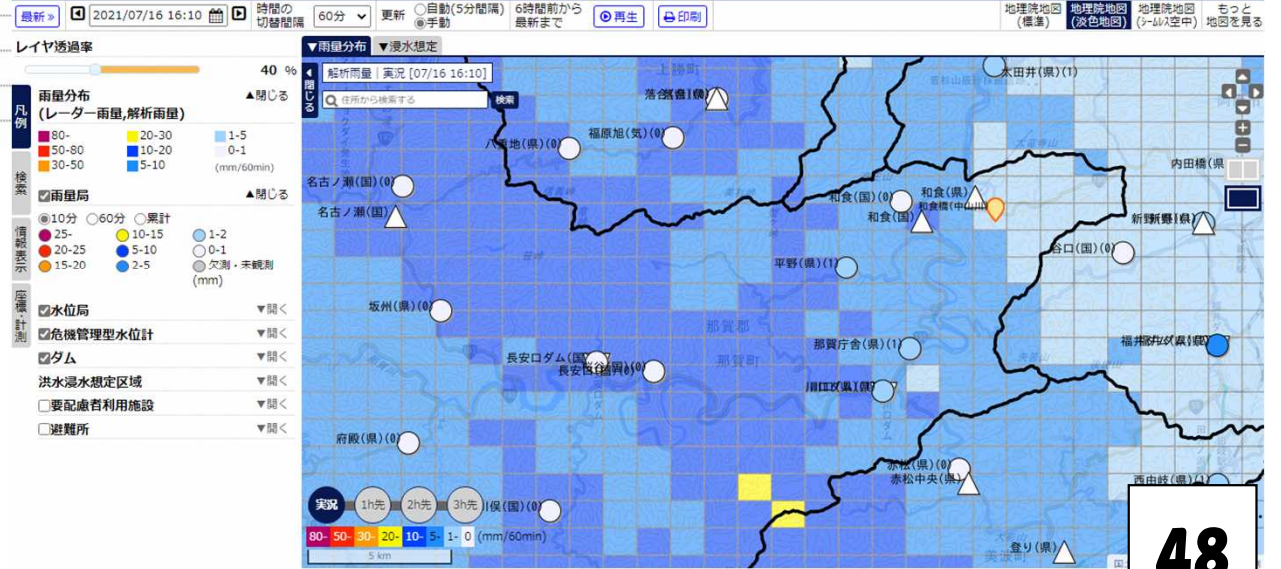
気象警報・注意報

2021年07月19日16時12分 発表

詳細はこちら(気象庁)

- 徳島・鳴門
- 美馬北部・阿北
- 美馬南部・神山
- 三好
- 阿南
- 那賀・勝浦

徳島県河川防災情報



地図情報、雨量情報、河川水位情報、ダム情報、気象警報・注意報、洪水予報、氾濫警戒情報、水防警報、カメラ映像等が確認できる。

地図情報



スマートフォン向けページ
<https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/sp/>
 (直接リンク)



モバイル向けページ
<https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/fp/>
 (直接リンク)

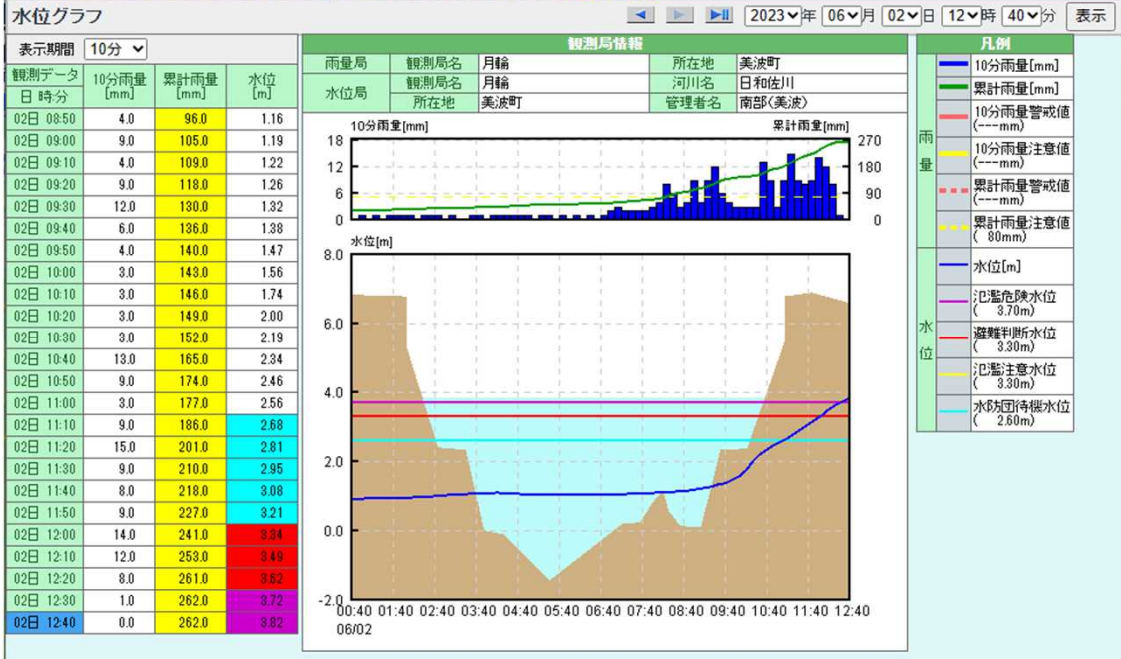


避難に役立つ防災情報 ・ 徳島県水防情報

河川水位情報

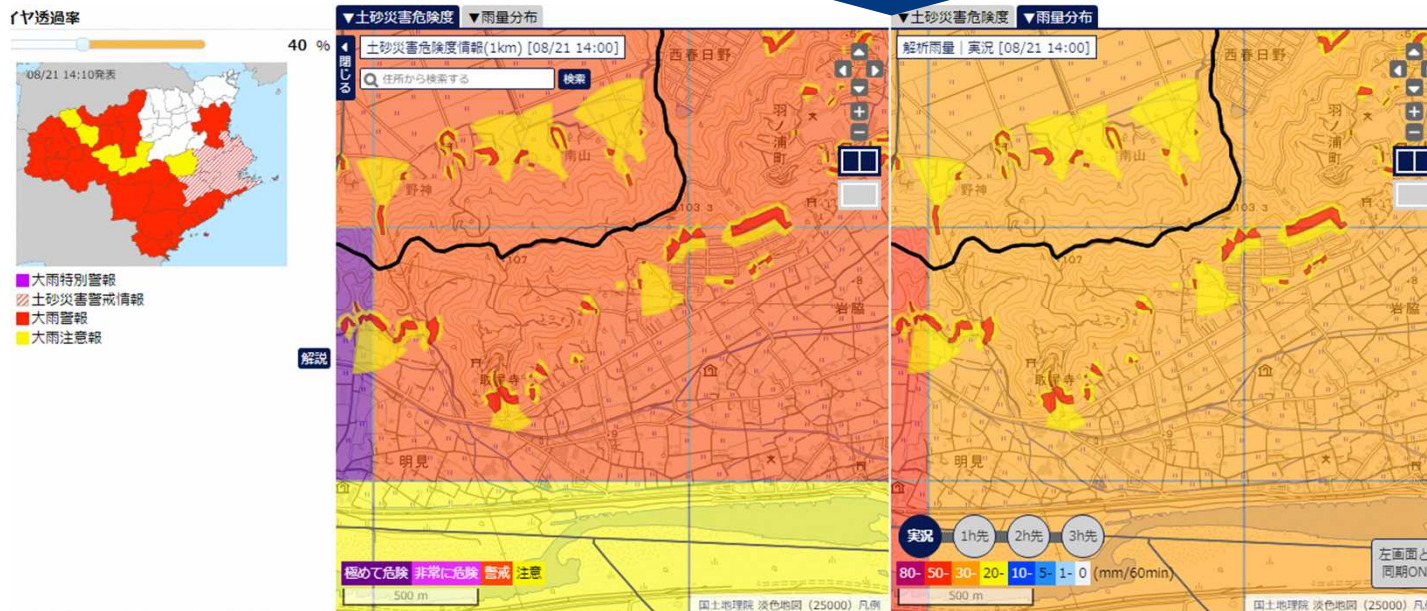
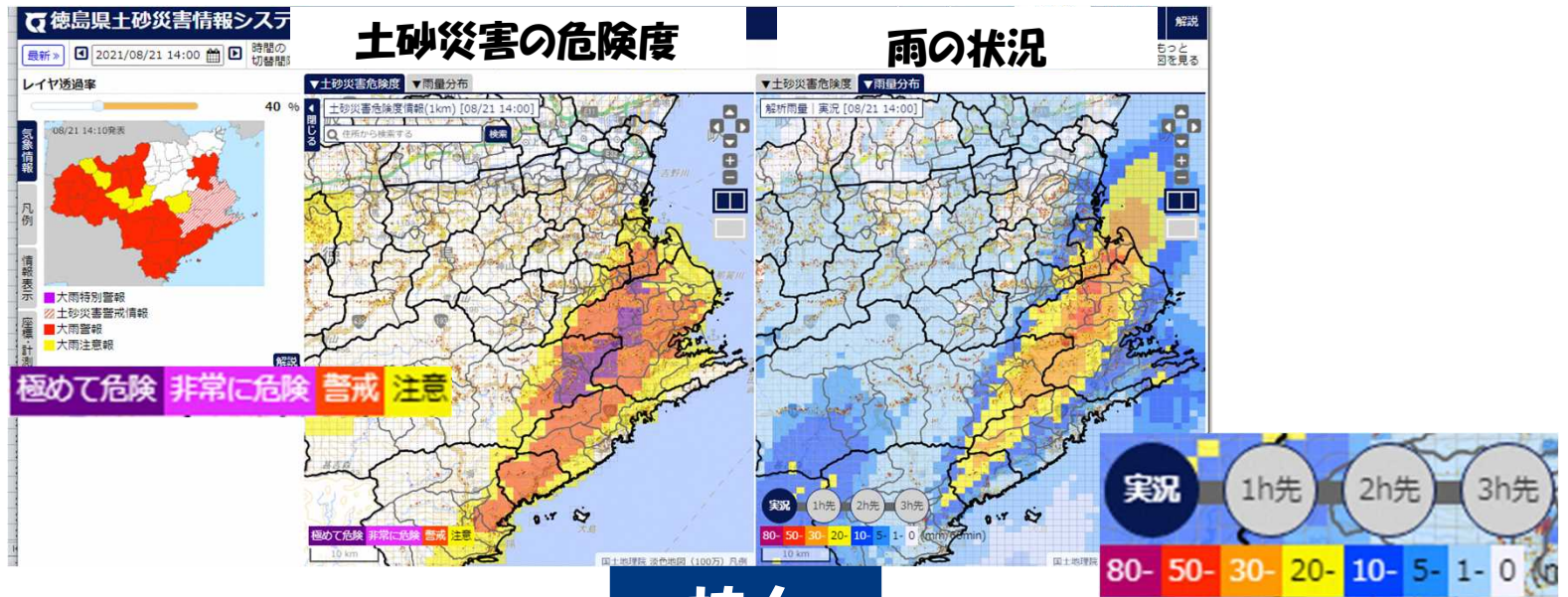


カメラ映像



徳島県土砂災害情報システム(徳島県)

●自宅周辺の土砂災害の危険度と雨の状況が両方わかる



避難訓練時の心構え

- **目標を定めて（目的を意識して）自分たちなりに訓練すること**
- **災害が起きそうなときの状況をイメージして試みる**
- **できることから始める**



- ◇ **想定される状況や必要と考えられる訓練項目についてまとめ、各施設の状況（入所者や通所者、職員の状況など）に応じて、自分達なりに訓練することが大切。→施設ごとに必要な訓練内容は異なる**
- ◇ **いざというとき、冷静に判断するために災害時に発生しそうなことをイメージすることを意識しながら実施することが重要←訓練時に状況設定**
- ◇ **災害は想定どおりに発生してくれない。「できること」と「できないこと」も、実際に確認してみることが大切→その上で利用者や職員の命を守る**

避難訓練の種類・・組み合わせで行うことも可

訓練種類	立退き避難訓練	屋内安全確保訓練
<p>訓練イメージ</p> 	<p>施設内移動 ⇒ 車両への移動、徒歩⇒ 避難先(利用者の支援)</p>	<p>施設上階への移動(階段・エレベーター)⇒ 上階での利用者の支援</p> 

訓練種類	図上訓練	情報収集・情報伝達訓練	避難経路等の確認訓練
<p>訓練イメージ</p> 	<p>・地図等を活用したイメージ訓練</p>	<p>・日頃からの気象情報等の確認 ・施設内での情報伝達訓練</p> 	<p>・避難先までの移動時間の確認 ・大雨時における安全性の確認</p> 

避難訓練の種類

<p>訓練の種類</p>	<p>設備・装備品・備蓄品・持ち出し品等の確認訓練</p>
<p>訓練イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の避難に必要なものを確保 ・避難先にて必要なものを確保 ・移動しやすい場所にあるかの確認 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

【参考】屋内安全確保で避難するときの注意点

- 施設内に数日間過ごせる量の食糧や水、薬を備蓄しておきましょう。
- 停電、断水、ガスの供給停止に備え、施設内に数日間過ごすための懐中電灯、非常用電源、携帯用トイレ等を備蓄しておきましょう。



【参考】避難支援に必要な設備や機材等

- エレベーターの活用に加え、非常用電源の設置やエレベーターの代替えとなるスロープの設置、階段昇降機の設置、車椅子等を支援者が持ち上げることも想定した階段幅の確保しましょう。
- 避難及び避難先における支援に必要な装備品や備蓄品を適切に確保しておきましょう。

※電力を必要としないものや蓄電池により稼働するもの



※車椅子や担架等を支援者が持ち上げることを想定した階段幅



非常用発電機



スロープ



出典：社会福祉法人新和会

避難訓練における留意点

- 避難訓練は、毎年実施することが重要です。
- また、訓練結果は市町村に報告する必要があります。
- 訓練終了後には、参加者により訓練の振り返り（AAR※）を実施し、必要に応じて避難確保計画を見直すとともに、避難体制の改善につなげるようにしましょう。
- 訓練結果の振り返りを適切に実施するためには、あらかじめ訓練の目的と目標を決めておくことが重要です。



5分程度でできるので、是非、やってみましょう。

1. 何をしようとしていた？
2. 実際はどうだった？
3. なぜそうなった？
4. 次はどう改善すべきか？



<振り返り(AAR)のイメージ>

※AAR(After Action Review)とは、訓練で明らかになった失敗や課題を当事者同士で議論し、次への改善や教訓として組織の災害対応に活かす「ふりかえり」です。

避難訓練の振り返りのポイント

- ◇設定した「訓練目標」は達成できましたか？
- ◇訓練で良かったことや得られたことは何でしたか？
- ◇避難にかかった時間は、事前のみこみのおいでしたか？
(見直しをする必要はありませんか？)
- ◇改善が必要な施設の体制はありませんか？
- ◇避難確保計画で見直しや追加が必要な項目は何でしたか？
- ◇本当に災害が発生しそうになったときに、施設利用者や職員は、
助かることができますか？

千寿園に係る災害リスク



洪水浸水想定区域
(最大規模)

56

土砂災害警戒区域等



バックウォーター現象

本流の水位上昇の影響により支流があふれ出す現象

③ 行き場を失った水が氾濫

本流

支流

① 本流の水が上昇

② 支流の水が合流できなくなる

水位が上昇している本流に、支流が流れ込む合流点付近が危険

千寿園における避難の課題

項目	千寿園の避難計画	課題
計画の対象	土砂災害を想定した内容。	<ul style="list-style-type: none"> 洪水による浸水に対応できていない。 ⇒洪水浸水想定(想定最大規模)を踏まえた避難計画にすることが必要。
職員配置	災害警報が発表された場合の体制として12名配置。	<ul style="list-style-type: none"> <u>避難誘導するための職員が参集できなかった。</u> ⇒早めの参集が必要。最小限の人数で誘導できる設備や体制等を考えておくことが必要。
協力者への要請	協力者として22名を計画し、大雨警報や避難情報発令時に協力者への事前協力の要請実施。	<ul style="list-style-type: none"> <u>協力者への要請をしなかった。</u> ⇒要請のタイミング等を明確化し、事前に訓練を実施しておくことが必要。
避難開始	避難準備・高齢者等避難開始が発令された場合に避難誘導。	<ul style="list-style-type: none"> <u>2階への垂直避難のタイミングが遅かった。</u> ⇒洪水浸水想定(想定最大規模)を踏まえた避難計画にすることが必要。
避難先	立ち退き避難先として、①千寿園駐車場、②渡小学校運動場・体育館、③球磨村総合運動公園桜ドームを設定。屋外避難が危険な場合は施設内に避難。	<ul style="list-style-type: none"> 渡小学校体育館、球磨村総合運動公園桜ドームは、避難準備・高齢者等避難開始の時点で開所していない。夜間や大雨時には施設内での避難を想定していた。 ⇒現実的な避難先を設定しておくことが必要。
避難方法	立ち退き避難の方法は、車両11台使用。施設内に避難する場合は、担架および徒手(2人支持)による。	<ul style="list-style-type: none"> <u>2階への垂直避難に時間を要した。</u> ⇒エレベーターやスロープ等を設置し迅速な避難を可能とすることが必要。
訓練	職員入職時の研修、毎年2回(5月、11月)避難誘導訓練を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 渡小学校体育館、球磨村総合運動公園桜ドームへの立ち退き避難の訓練は実施していない。 ⇒現実的な避難先を設定しておくことが必要。

本資料は、千寿園から聞き取った内容を要約して記載

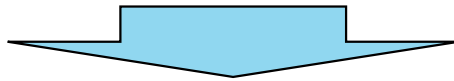
タイムラインを作ろう！

タイムラインってなに？

台風が近づいてきて、川の「はん濫」や「土砂災害」が発生しそうになっています。

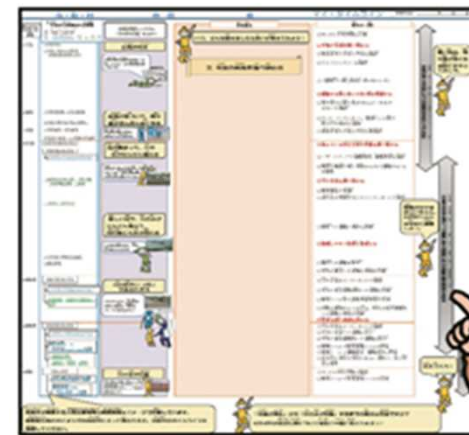


あなたは、あわてずに行動できますか？



災害が起きそうなときに、余裕を持って逃げるために

「いつ」「何をするか」



大田区防災ポータルより



事前に考えておく、避難計画のことです。

タイムラインの台紙について

タイムライン

「台風や前線が発生」してから「災害が起こるまで」の備えは万全ですか？ 雨の降り方や周囲の状況に合わせて**命を守る行動**を取りましょう。

作成日 年 月 日

時間軸	河川の水位	防災気象情報	キキクル(危険度分布) 洪水予報	避難情報	警戒レベル	主な備え(私たちの行動)
台風・前線発生前					平時 (事前の備え)	
3日前	水防団待機水位到達 川 水位 m	台風発生 早期注意情報(警報級の可能性)			警戒レベル 1 災害への心構えを高める	
2日前						
1日前	氾濫注意水位到達 川 水位 m	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	注意 氾濫注意情報		警戒レベル 2 自らの避難行動を確認	
3時間前	避難判断水位到達 川 水位 m	大雨警報 洪水警報 高潮注意報(高潮警報に切り替える可能性が高い)	警戒 氾濫警戒情報	高齢者等避難	警戒レベル 3 危険な場所から高齢者等は避難	
2時間前	氾濫危険水位到達 川 水位 m	土砂災害警戒情報 高潮警報・高潮特別警報	危険 氾濫危険情報	避難指示	警戒レベル 4 危険な場所から全員避難	
災害発生		大雨特別警報 氾濫発生情報	災害切迫 緊急安全確保		警戒レベル 5 命の危険直ちに安全確保!	

避難所の名称 電話番号 備考

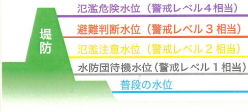
最寄り水位・雨量観測局、河川監視カメラ

水位計

雨量計


河川監視カメラ

(参考)




氾濫危険水位(警戒レベル4相当)
避難判断水位(警戒レベル3相当)
氾濫注意水位(警戒レベル2相当)
水防団待機水位(警戒レベル1相当)
普段の水位


避難所の情報




土砂災害危険度の情報



河川・海岸の水位情報



通行規制の情報



■ 時間軸は目安です。
■ 気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間はイメージで記載しています。


- ① 台風が発生し、日本列島に近づいてきます。すると、だんだん雨ははげしく、河川の水位も上昇し、3日後に災害が発生するとします。
- ② 台風が発生してから災害が発生する間に、様々な防災気象情報や避難情報が発表され、警戒レベルが1から5にアップしていきます。

タイムラインの台紙について

タイムライン

「台風や前線が発生」してから「災害が起こるまで」の備えは万全ですか？ 雨の降り方や周囲の状況に合わせて**命を守る行動**を取りましょう。

作成日 年 月 日

時間軸	河川の水位	防災気象情報	キキクル(危険度分布) 洪水予報	避難情報	警戒レベル	主な備え (私たちの行動)
台風・前線発生前					平時 (事前の備え)	
3日前	水防団待機水位到達 川 <input type="text"/> 水位 <input type="text"/> m	台風発生  早期注意情報 警報級の可能性)			警戒レベル 1 災害への心構えを高める	
2日前						
1日前	氾濫注意水位到達 川 <input type="text"/> 水位 <input type="text"/> m	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	注意 氾濫注意情報		警戒レベル 2 自らの避難行動を確認	
3時間前	避難判断水位到達 川 <input type="text"/> 水位 <input type="text"/> m	大雨警報 洪水警報 高潮注意報 (高潮警報に切り替える可能性が高い)	警戒 氾濫警戒情報	高齢者等避難	警戒レベル 3 危険な場所から高齢者等は避難	
2時間前	氾濫危険水位到達 川 <input type="text"/> 水位 <input type="text"/> m	土砂災害警戒情報 高潮警報・高潮特別警報	危険 氾濫危険情報	避難指示	警戒レベル 4 危険な場所から全員避難	
《 警戒レベル4までに必ず避難！ 》						
災害発生		大雨特別警報	災害切迫 氾濫発生情報	緊急安全確保	警戒レベル 5 命の危険直ちに安全確保！	

避難所の名称	電話番号	備考

最寄りの水位・雨量観測局、河川監視カメラ

水位計	
雨量計	
河川監視カメラ	



避難所の情報 	土砂災害危険度の情報 
河川・海岸の水位情報 	通行規制の情報 

■ 時間軸は目安です。
■ 気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間はイメージで記載しています。

アクションシールについて

アクションシールは、台風の発生前から避難するまでの間に、皆さんがとるべき行動をシールにしたものです。

ハザードマップで施設周辺で起こる災害を確認する

避難場所や避難経路を決めておく

ハザードマップで施設周辺で起こる災害を確認する

避難場所や避難経路を決めておく

テレビやスマートフォン等で台風情報や気象情報を確認する

最寄りの水位計や雨量計を確認する

避難のタイミングを決めておく

利用者の避難を始める

避難先へ持ち出し品等を運搬する

外が危険なので施設の一番安全な場所に避難する

移動に必要な車を確保する

事前休業の判断をする

避難先への持ち出し品を準備する

利用者全員の避難完了を確認し、役場等へ連絡する

停電時に必要なものを確認しておく

利用者家族へ迎えの依頼の連絡をする

地域との応援体制を確保しておく

避難訓練をする

職員向け防災研修を実施する

病院で薬をもらう

避難先への持ち出し品を点検する

ハザードマップで施設周辺で起こる災害を確認する

タイムラインを作成しよう！

タイムライン

「台風や前線が発生」してから「災害が起こるまで」の備えは万全ですか？ 雨の降り方や周囲の状況に合わせて命を守る行動を取りましょう。

作成日 年 月 日

時間軸	河川の水位	防災気象情報	半キロ以上(避難所)の洪水情報	避難情報	警戒レベル	主な備え(避難の行動)
台風・前線発生前					平時 (事前の備え)	
3日前	水防設備水位到達 川 水位 m	台風発生 早期注意情報(警戒級の可能性)			警戒レベル 1	
2日前	沿岸浸水水位到達 川 水位 m	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	注意 沿岸注意情報		警戒レベル 2	
1日前	避難判断水位到達 川 水位 m	大雨警報 洪水警報 高潮注意報 (高潮警報に切り替える可能性が低い)	警戒 沿岸警戒情報	高齢者等避難	警戒レベル 3	
3時間前	沿岸危険水位到達 川 水位 m	土砂災害警戒情報 高潮警報・高潮特別警報	危険 沿岸危険情報	避難指示	警戒レベル 4	
2時間前					警戒レベル 5	
災害発生		大雨特別警報 災害切迫 沿岸発生情報	緊急安全確保		命の危険 即刻に安全確保	

避難所の名称 電話番号 備考

最寄り水位・雨量観測所、河川監視カメラ

水位計

雨量計

河川監視カメラ

(参考)

堤防 避難判断水位(警戒レベル4相当)
沿岸危険水位(警戒レベル3相当)
水防設備水位(警戒レベル2相当)
警戒水位

避難所の情報 土砂災害危険度の情報

河川・海岸の水位情報 通行規制の情報

※ 避難所は目安です。
※ 気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間はイメージで記載しています。

アクションカード

八ヶ一帯のエリアで施設周辺で起こる災害を確認する

避難場所や避難経路を決めておく

全員避難を始める

通行止め情報等を確認する

避難先で利用者を支援を行う

電話がつかない時の連絡手段を決めておく

避難訓練をする

テレビやスマートフォン等で台風情報や気象情報を確認する

最寄りの水位計や雨量計を確認する

避難先の受け入れ体制を確認する

車庫や利用者家族等との連絡方法を確認する

利用者家族へ避難開始の連絡をする

避難場所・避難経路・避難のタイミングを利用者家族と共有しておく

職員向け防災研修を実施する

避難のタイミングを決めておく

利用者の避難を始める

備蓄品を補充する

利用者等の装備品を装着する

利用者の避難開始を現場へ連絡する

職員の役割分担を決めておく

病院で薬をもらう

避難先入持ち出し品等を運搬する

外か危険な場所で施設の一帯安全な場所に避難する

避難時に使用する装備品を確認する

利用者を施設内の安全な場所へ移動させる

スマートフォンやタブレット等を充電しておく

避難確保計画の見直しを行う

避難先への持ち出し品を点検する

移動に必要な車を確保する

事前休養の判断をする

避難先入の持ち出し品を準備する

利用者全員の避難完了を確認し、後場等へ連絡する

携帯電話に必要なものを確認しておく

利用者家族へ過去の連絡をする

地域との応援体制を確保しておく

- ① 平時にやっておくべきことを決める
- ② いつ避難するか決める
- ③ ②が決まったら、それまでに何をどのタイミングで行うかを決めていく

タイムラインを作成しよう！…考えるヒント

- 情報収集や情報伝達、防災体制の確立、装備品等の準備、避難誘導の実施などの**防災行動を時系列で整理し、タイムラインを作成**しておきましょう。
- タイムラインは、日中や夜間といった避難する時間帯、施設の特徴などに応じて、**複数のケースのものを作成**しておくことが必要です。

